

車のコーティングは親水系と撥水系とどちらが良いか？

撥水系コーティング

それでは、車のコーティングについて、親水と撥水について考えてみましょう。撥水と親水の仕組みは、水と油の関係を解説すると分かり易いと思います。撥水効果を出しているのは一般的にワックス等の油成分等で、水をはじくかわりに油分、つまり落ちにくい頑固な油性の汚れとは馴染みやすい有機系ケミカル特有の性質があります。

撥水系のコーティングはこの厄介な汚れが付着しやすく、また静電気を帯びやすいため大気中に浮遊している排気ガス、チリやホコリ等を吸い寄せてしまう性質があります。このため、水滴や有機成分が流れた跡などに汚れやホコリを含み、乾燥後は汚ダレ等の原因になります。

またボディ塗膜上の水滴はシミやウォータースポットなど、様々なトラブルの原因となります。



親水系コーティング

これに対し親水コーティングは逆の効果があり、付着しやすい汚れは水性のもので、落ちにくい油性の汚れは寄せ付けにくい性質があります。更に、コーティング面にかかった雨や水は水滴にならずに拡がるので、レンズ効果や酸性雨によるクレーターなどの大きなトラブルが起きにくくなります。

また、親水塗膜は水がかかると自己洗浄（セルフクリーニング）作用を発揮して汚れを洗い流し、汚れそのものは、排気ガス系の黒っぽい汚れとは違い、砂、土埃系の茶色っぽいもので、水洗い程度で落とせます。多少汚れても、雨上がり後は表面上の汚れが洗い流されて艶が復活します。このように、どちらかと言うと、撥水タイプは見た目の良さを重視するコーティングであり、親水タイプは汚れ防止や保護効果に優れたコーティングであると言えます。

